

みんなでつむぐ希望のまち

住んで安心 笑顔でくらそう、



目 次

序 文

1. 楽々園学区の概要.....	1～2
2. データでみる楽々園学区.....	3～6
3. 楽々園学区まちづくり推進協議会の活動.....	7～8
4. 現在取り組んでいる活動と団体の紹介.....	9～10
5. 楽々園学区のありたい姿・こんなまちにしたい	
・ 子どもたちの視点から.....	11～14
・ 大人の視点から.....	15～16
6. 福祉のまちづくりのために、今後取り組むべきこと.....	17～18
7. 活動を振り返って.....	19

楽々園学区社会福祉協議会の活動内容

楽々園学区の地図

プラン策定委員と協力団体

序 文

第2次「福祉のまちづくりプラン」5か年計画 ―2024年～2028年―

この「まち」に住む私たちは、この「まち」で安心して暮らしたい、住み続けたい、自分らしく暮らしたいと願っています。それを実現していくための計画が「福祉のまちづくりプラン」です。

楽々園学区では2004年(平成16年)に、第1次「福祉のまちづくりプラン」を作成し、現在にいたります。

時代とともに変化してきた環境に合わせ、2022年(令和4年)から第2次「福祉のまちづくりプラン」の作成に取り組み始めました。

この活動をより総合的・計画的に進め、地域を元気にするために策定委員会を発足しました。

楽々園学区の各種団体を通じてアンケートを実施し意見を集め、楽々園小学校の児童の皆さんに夢を語っていただき、それらを基に策定委員会(7回)・作業部会(19回)で「福祉のまちづくりプラン」策定への話し合いを進めていきました。

そして、この度プラン書としてここにまとめることとなりました。



策定委員会



作業部会



佐々木区長との懇談会

1. 楽々園学区の概要

楽々園学区は、佐伯区の最西南に位置し、南に海を臨む学区です。楽々園地区、隅の浜・美の里地区で構成されています。

大正時代の初期、隅の浜・美の里地区は塩田として開拓され、昭和になって楽々園地区に遊園地や海水浴場が出来て、行楽客で大変賑わっていました。昭和30年代後半、楽々園沖は埋め立てられ、遊園地は1971年(昭和46年)に閉園となり、その後、ショッピングセンターが出来、急速に人口が増加し、住宅地、商業地区として発展してきました。

1989年(平成元年)に楽々園小学校が開校し、楽々園学区となりました。

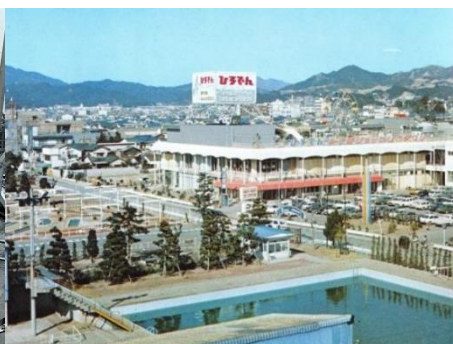
海老塩浜村(明治中頃)



楽々園遊園地



ショッピングセンター



楽々園学区の誕生により、学区社会福祉協議会をはじめ諸々の団体が学区単位に再編成されました。

町内会連合会は、楽々園地区と隅の浜・美の里地区連合会の2つの組織があり、双方の連携を図るため、学区町内会連合会が組織されました。

2011年(平成23年)中国電力運営の温泉施設がオープンされました。

2015年(平成27年)には税務大学校移転が行われ、のちに高齢者福祉施設が建設されました。

2016年(平成28年)頃から公務員住宅の解体が進み、令和に入ると、整備された跡地に大型マンションや一戸建て住宅が次々と完成して、まちの様子がすっかり変わりつつあります。

現在も、大型商業施設エリアが形を変えながら、更に便利で生活しやすくなっています。

2021年(令和3年)4月に、「楽々園学区まちづくり推進協議会」が組織され、町内会連合会、社会福祉協議会を中心に、学区の実情に応じた、新たな協力体制が整いました。

2022年(令和4年)9月現在、楽々園学区は5,477世帯、人口11,471人です。そのうち65歳以上の高齢者は、2,653人となっています。

現在の楽々園学区



楽々園



隅の浜



美の里

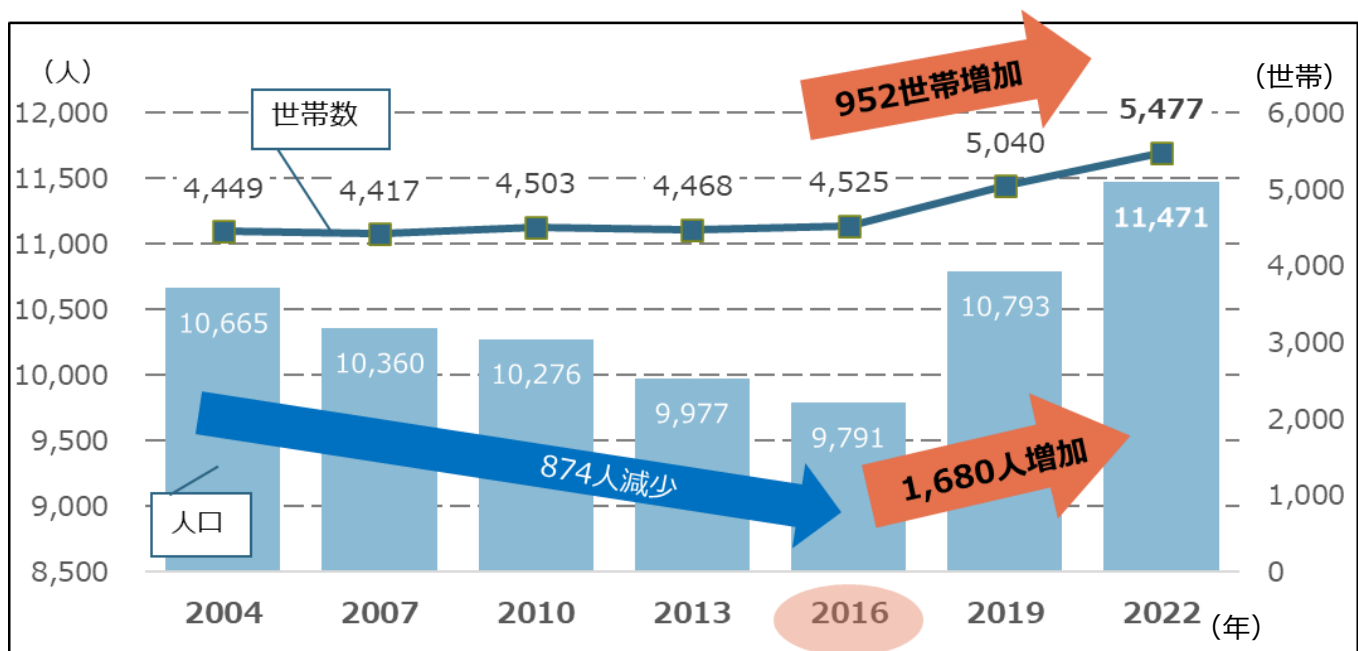
2. データでみる楽々園学区

楽々園学区のこれまでと現在

～前回の福祉のまちづくりプラン作成後(2004年)からの変化を見る～

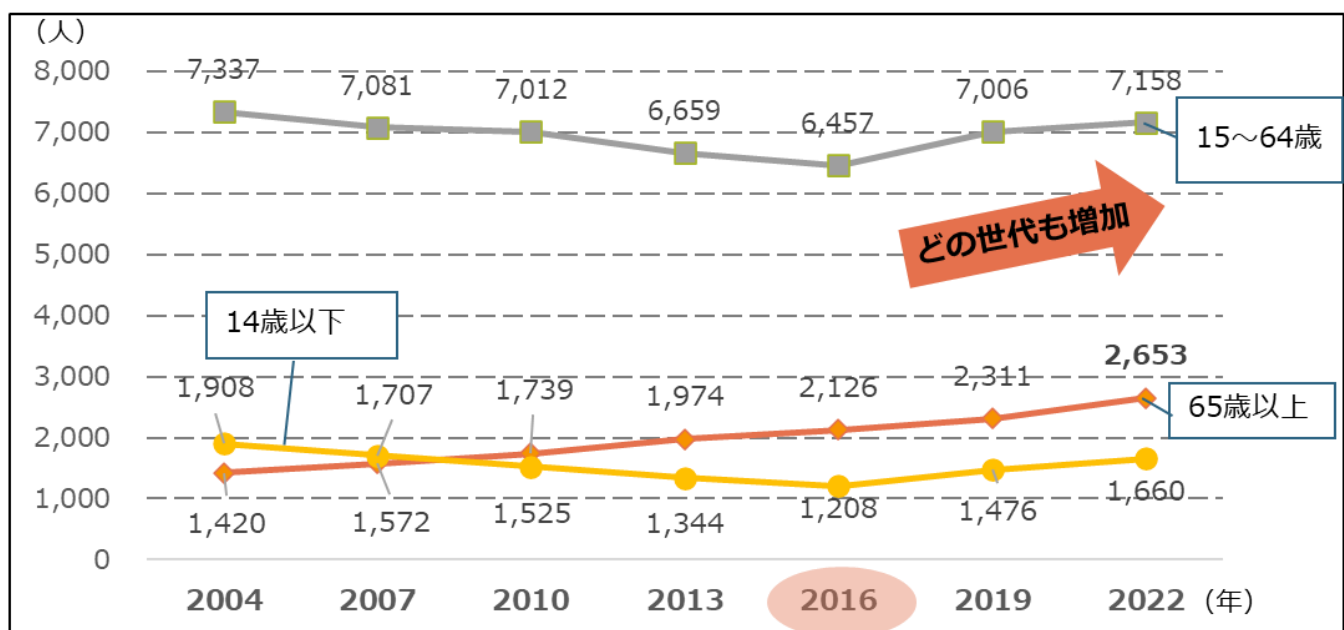
<人口と世帯数の推移>

・人口および世帯数は減少していたが、2016年を境に増加している。



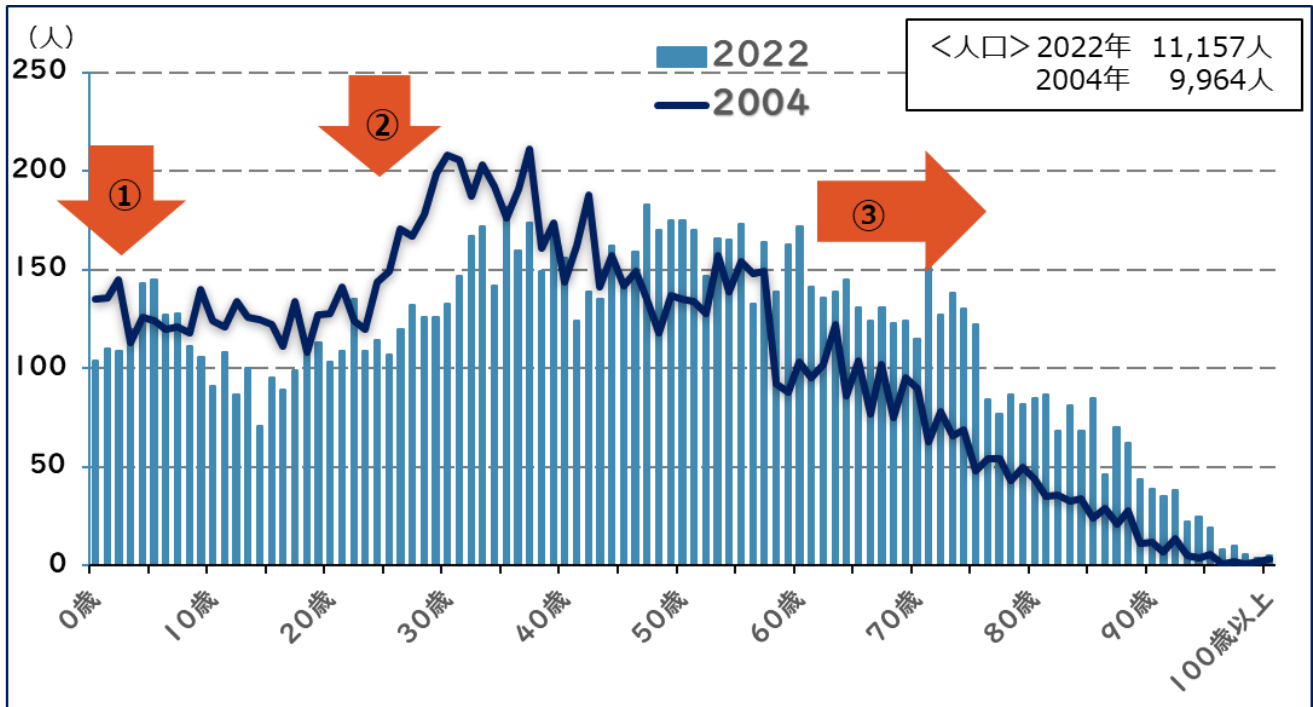
<年齢区分別人口の推移>

- ・年齢区分別にみると、14歳以下の年少人口および15～64歳人口は、2016年以降は増加している。
- ・65歳以上高齢者については、18年間増加(1,233人増)し続けており、高齢化率は13.3%から23.1%になっている。



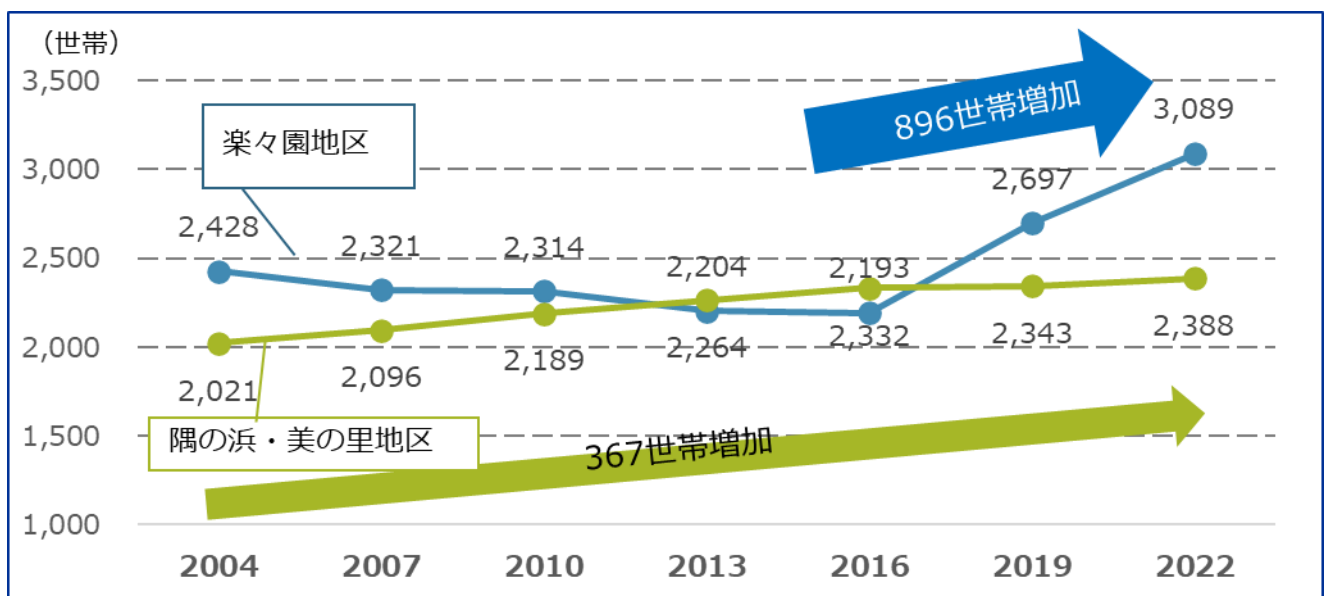
<2004年と2022年の年齢分布の比較>

- ・18年前と比べて、0～5歳、10～35歳の人口が減少(①・②)し、50歳以上が増加(③)している。
- ・2004年は、最も多い世代がおよそ25歳～45歳であったが、2022年には30歳～75歳の間で全体的に分散している。



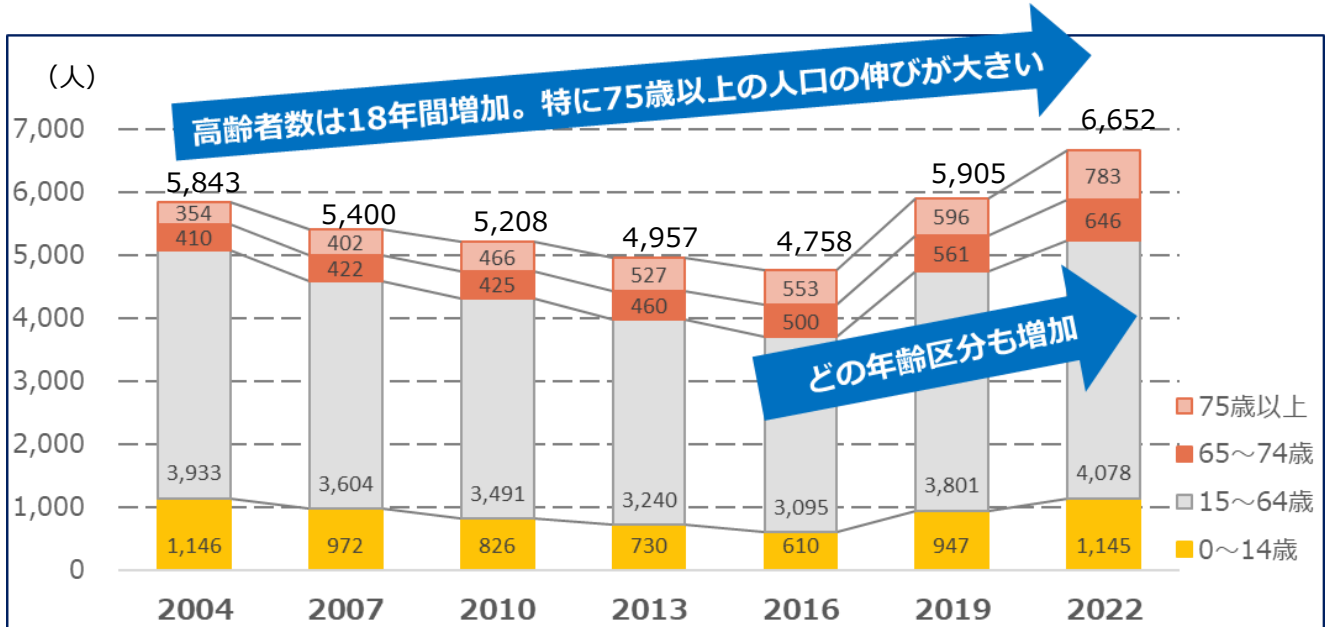
<楽々園地区と隅の浜・美の里地区別の世帯数の推移について>

- ・楽々園地区では、世帯数は減少傾向にあったが、2016年以後増加している(6年で896世帯増)。
- ・隅の浜・美の里地区では、18年間、緩やかに世帯数が増加している(18年で367世帯増)



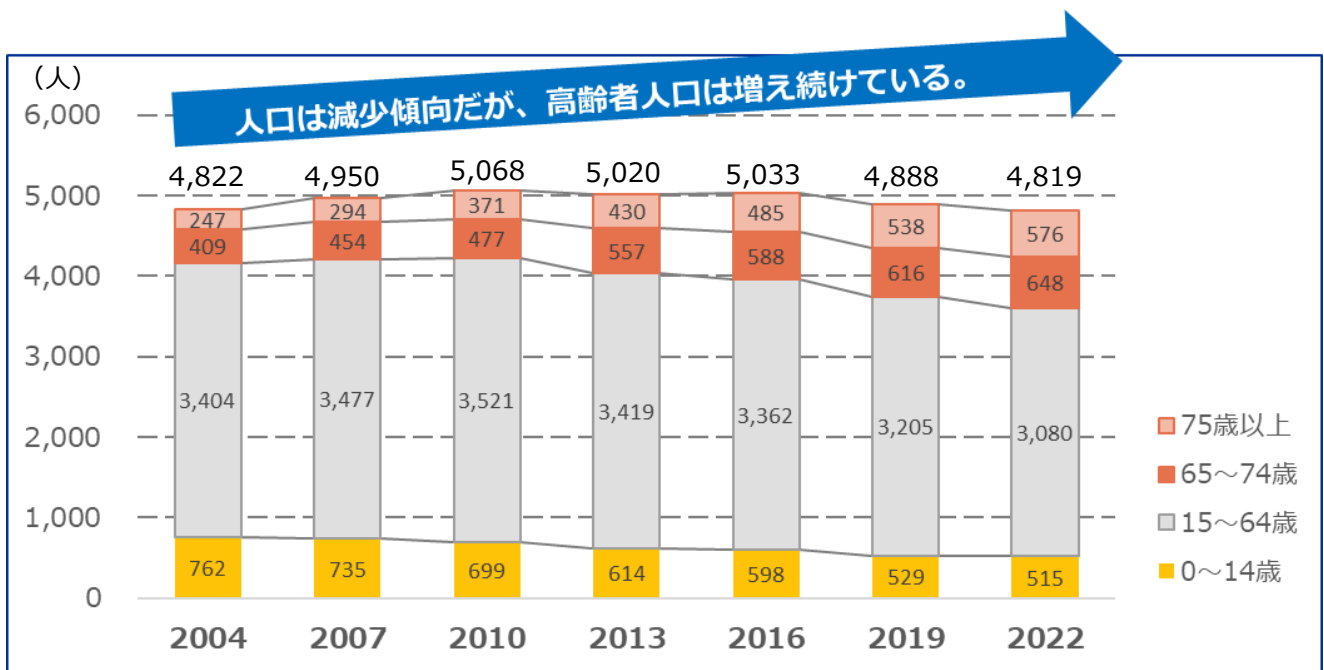
<楽々園地区の人口の推移>

- ・2016年以降、どの年齢区分の人口も増加している。ここ6年間で 14歳以下は535人、15～64歳は983人増加。
- ・高齢者人口65歳以上は、2004年以降増加し続けている。ここ18年間で65歳以上は665人増加。うち、65～74歳236人、75歳以上は429人の増加で、特に75歳以上 高齢者の人口の伸びが大きい。

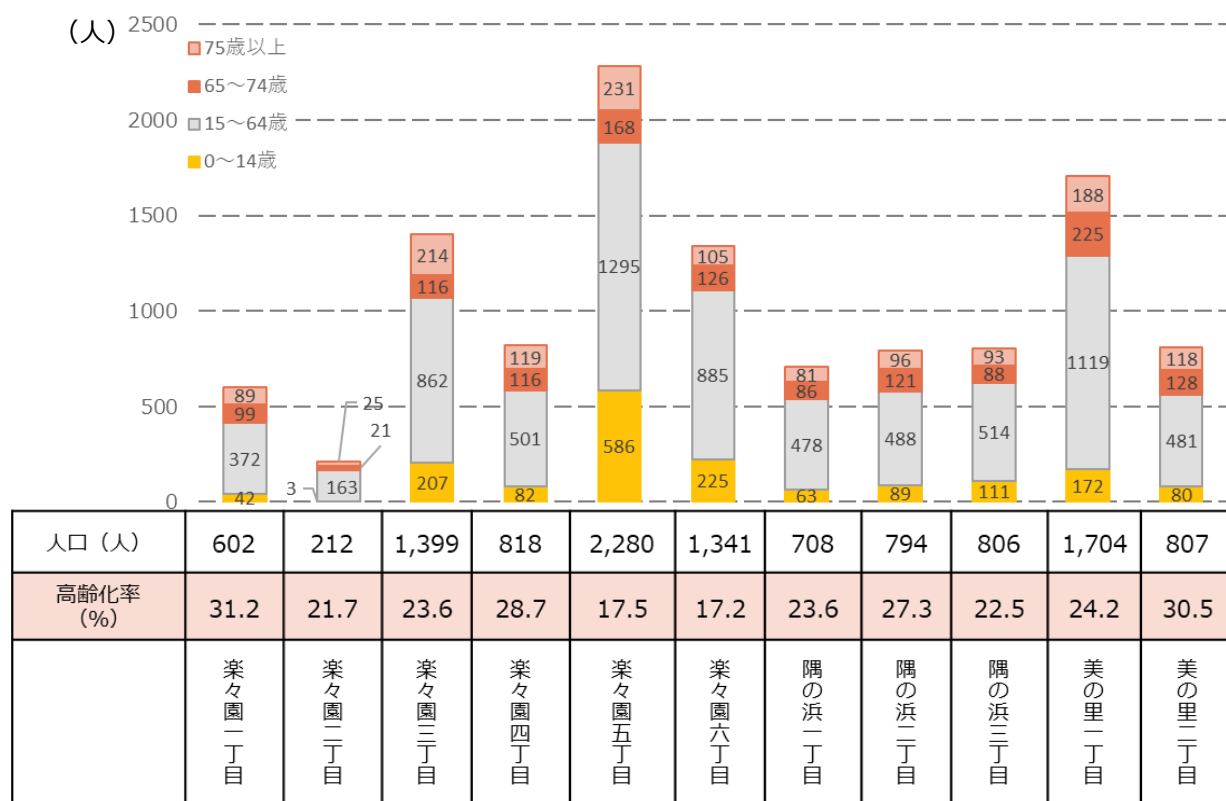


<隅の浜・美の里地区の人口の推移>

- ・人口は、2010年までは増加傾向だったが、その後、減少傾向にある。15～64歳人口についても、同様の動きになっている。
- ・14歳以下人口は、減少し続けている(ここ18年間で247人減少)。
- ・高齢者人口は、2004年以降増加し続けている(65歳以上では568人増加。うち、65～74歳239人、75歳以上329人の増加で、こちらのエリアも 75歳以上の高齢者の人口の伸びが大きい)。



<参考>丁目ごとの年齢区分人口と高齢化率(2022年9月末現在)



楽々園学区の状況について(まとめ)

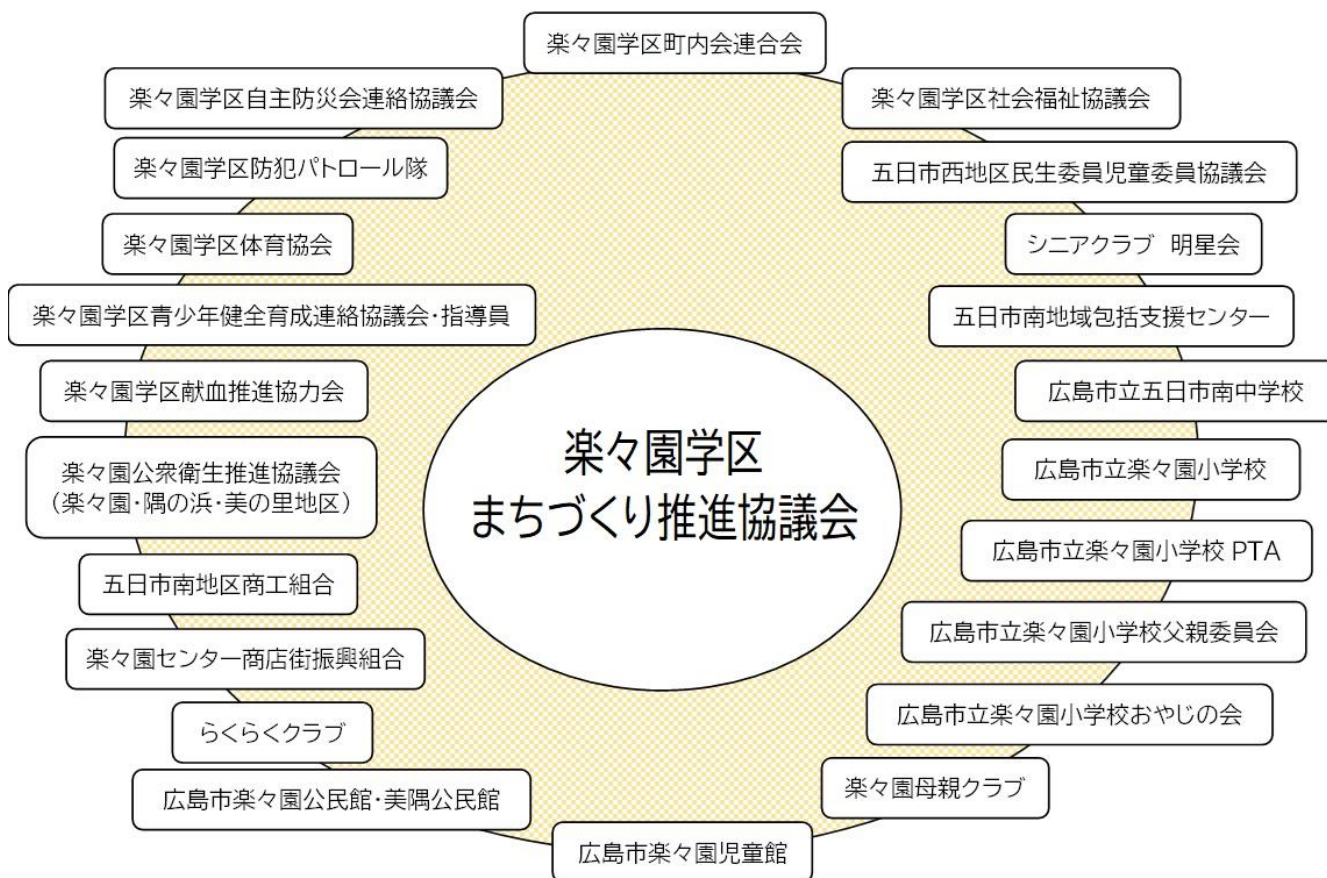
- ・ここ6年間で楽々園学区に新たに住み始めた人が約 1,700 人、1,000 世帯あり、その中に子育て世帯も多い。今後数年間は新たに生まれる子どもがいることが見込まれ、14歳以下人口は増えることが予想される。一方で、他市町と同様、高齢化が進んでいる現状もある。
- ・楽々園地区、隅の浜・美の里地区に分けてみると、楽々園地区では人口および64歳以下の人口が増えている。また、どちらの地区でも高齢者人口は18年間増え続けている。
- ・隅の浜・美の里地区では人口が減少傾向にあるが、世帯数は増加し続けていることから、少人数の世帯が多くなっているといえる。さらに、高齢化率も高くなっていることから、高齢者のみの少人数の世帯が多くなっていると考えられる。

*学区全体として、新しく住み始めた人が多いことや高齢者人口も増え続けているため、子どもや子育て世帯への支援、高齢者への困りごと支援や見守り等を充実させていく必要がある。



3. 楽々園学区まちづくり推進協議会の活動

「楽々園学区まちづくり推進協議会」は、学区町内会連合会と学区社会福祉協議会が中心となって、令和3年4月に発足。学区の諸団体が協力して、地域の活性化と住みよいまちづくりを推進する体制ができました。



2023 楽々園学区フェスティバル



2023 三世代交流そうめん流し



2023 楽々園学区サマーフェスタ



2023 楽々園学区親善大運動会



2023 元気いっぱい らくらくマラソン大会



2023 あまんじゃくウォークラリー



4. 現在取り組んでいる活動と団体の紹介

楽々園学区ぼちぼち応援隊

2019年(令和元年)5月に立ち上げた「楽々園学区ぼちぼち応援隊」は当初、高齢化した地域の方々の困りごとの手助けをぼちぼちやろうと、楽々園学区社会福祉協議会を母体として有志で活動を始めたものでした。

2023年(令和5年)7月「広島市住民主体型生活支援訪問サービス」の認定をうけ、広島市からの補助を受けられるようになりました。今までの活動に加えて、五日市南地域包括支援センターと連携し、更に困りごと支援の地域サービスに貢献できる体制になりましたが、ボランティアメンバーの高齢化が目下の課題です。



カミナリゴロゴロこども食堂

2023年(令和5年)2月、楽々園学区社会福祉協議会の事業として「カミナリゴロゴロこども食堂」がスタートしました。

地域子どもたちに食事と居場所を定期的に提供しています。子どもたちを中心とした、保護者や地域の人たちとの多世代交流の場となる事を目指して、たくさんのボランティアの方々と一緒に、わいわいがやがやと月1回、個人(平林)宅で開催しています。



五日市南地域包括支援センター

楽々園学区の高齢者の見守り支援事業として、2016年(平成28年)から「楽々あんしんネットワーク」が発足し、地域包括は事務局として、地域団体の代表者の方々と一緒に活動をしています。

内容は、登録者の方を協力員さんが個別に見守り、五日市南地区商工組合・楽々園センター商店街振興組合の中から、【見守り加盟店】に登録された店舗と連携を図りながら、見守り活動を展開し、新たに2022年(令和4年)1月からは、地域団体を通じた元気の見守り活動をスタートすることになりました。

楽々園学区社会福祉協議会のサロン、百歳体操、シニアクラブに登録されている方を対象に、いつもの活動を【見守り活動場所】とし、参加を通じてお元気の見守りあいをしていただく仕組みです。

いつまでも住み慣れた地域で、自分らしい生活を続けていけるように、地域で支えつながらあえる楽々園をめざしていきましょう。



民生委員児童委員・主任児童委員

民生委員児童委員・主任児童委員はこんな活動をしています。

(相談・支援活動)

- 住民の生活上の心配ごとや困りごと、福祉に関する相談に応じること
- 高齢者世帯の見守りのための定期的な訪問
- 生後4か月までの乳児のいる家庭への訪問

(地域福祉活動)

- 高齢者のいきいきサロンや乳幼児を対象とした子育てオープンスペースへの協力
- 通学路における子供たちの見守り
- 地域行事、保育園・学校行事への参加・協力

(連携・研修活動)

- 活動を充実させるため、関係機関・団体の研修会へ参加して、連携を強める



5. 楽々園学区のありたい姿・こんなまちにしたい（アンケート結果から）

楽々園小学校児童5年生対象の特別授業 ～子どもたちの視点から～

楽々園学区「福祉のまちづくりプラン」の策定に向けて、以下の内容で5時間の特別授業を行いました。
また、授業の前後でアンケートをとり、楽々園小学校5年生のみなさんから意見を聞きました。

- ① 海老山西側での江戸時代初期の塩づくり・西国街道
- ② 広島電鉄と楽々園学区とのつながり
- ③ 現在の楽々園学区における地域活動に携わる方の活動報告
(社会福祉協議会 ・ 防犯パトロール ・ まちづくり推進協議会)



■ 事前アンケート

(5年生84名 : 複数回答)

(1) これまで楽々園学区に住んで 楽しかったことは？

- ◇ 学区の行事(土曜夜市・親善大運動会・公民館まつり・マラソン大会など)に参加したこと 71名
- ◇ スポーツセンターや公園で遊んだこと..... 12名
- ◇ その他(買い物がしやすい／海が見える／学校が楽しい／地域の人がやさしい) 4名
- ◇ 無回答 なし

(2) これまで楽々園学区に住んで困ったことは？

- ◇ 困ったことはない 28名
- ◇ ショッピングセンターがなくなったこと 23名
- ◇ 公園でボール遊びができないこと..... 4名
- ◇ 生活マナーが悪い(犬やネコのふん／タバコのすいがら など) 9名
- ◇ 交番がない..... 2名
- ◇ その他(街灯が少ない／JR 駅がない／大きい公園がない／工事音がうるさい) 4名
- ◇ 無回答 14名



■ 特別授業後アンケート (1) (5年生84名 : 複数記述)

— 海老山西側での江戸時代初期の塩づくり・西国街道／広島電鉄と楽々園学区とのつながり —

(1) 初めて知ったことは、何ですか？

約110年前まで、楽々園には大きな塩田があり、塩を生産していたこと。

約50年前、楽々園学区には大きな楽々園遊園地と海水浴場があったこと。



広島電鉄の楽々園駅は何度も名前を変え、最終的に「楽々園駅」になったこと。(沖に塩田があったので、「塩浜駅」と呼ばれた時もあった)

1955年に、楽々園商店街ができたこと。

楽々園学区は、海の埋め立ての中で、広島電鉄さんと深いつながりをもちながら発展してきたこと。

これから、新しいショッピングセンターの建設が計画されていること。

約70年前、現在の楽々園学区は、海だったこと。

広島電鉄さんが、「楽々園」という名前を大切にしながら、楽しい場所を作ってくれたこと。(施設が閉店しても、何度も次につながる場所を作ってくれたこと)

(2) 人々は、楽々園学区を魅力あるまちにするためにどんな工夫と努力をされましたか？

海の埋め立てを計画的に進めて、「どうしたら、人々が集まって楽しく遊ぶことができるか？」を考えながら、いろいろな施設を建設してきた。(人を集めるために、遊園地や海水浴場を作った)

広島電鉄さんが、「楽々園駅」を中心に、その地域の発展を考え、いろいろな施設を作り、地域の人々を楽しませた。

人に参加してもらうために、楽しいポスターを作成した。

より人を集めるために、楽々園商店街を作った。

諦めずに、次々にまちづくりを進めていった。



楽々園遊園地では、いろいろな楽しい企画を作り、人を集めた。

■ 特別授業後アンケート（2）（5年生84名：複数記述）

— 現在の楽々園学区における地域活動に携わる方の活動報告 —

（社会福祉協議会／防犯パトロール／まちづくり推進協議会）



（1）地域でお世話してくださっている方々のお話を聞いて、どんなことを感じましたか？

「私たちが知らないところで、人々の安全・安心のためにいろいろなことをしてくれているんだな」とびっくりしながらあがれました。

普段から防犯パトロール隊の方々が、私たちの登下校の見守りをしてくださっていることに感謝したい。

楽々園学区のたくさんのイベントに参加して、みんなで笑顔をつくりたい。

楽々園学区には、フェスティバルやサマーフェスタなどたくさんの行事があることを知り、参加してみようと思った。

私たちは、いつも普通に過ごしている感覚だけでも、その裏に地域の方々がおられるおかげだと思いました。

楽々園学区では、計画的にさまざまな開発が進んでいる。

楽々園学区を支えてくださっている団体がたくさんあることを知って、びっくりしました。

「わたしも大人になったら、楽々園学区の地域ボランティアに参加したい」と思った。

地域の方々が見守っていただき、とても心強いです。自分でもできることはしていきたい。たとえば、ヘルメットをかぶったり、110番の家や防犯ブザーの確認をしたい。

わたしたちは、いろんな人に助けられたり守られたりしていることを知った。「わたしたちも何かできたらいいなあ」と思った。



(2) みんなで協力して、暮らしやすいまちをつくるにはどんなことが大切ですか？

みんなが参加できる行事やイベントを開催して、地域の方々と知り合いになること。

みんなと協力して行事を開催し、地域の人々のきずなや関わりを深めていくこと。

ボランティアの方々を増やすこと。

困っている人がいたら、声掛けをすること。

相手の気持ちを考えながら、ゆずりあいの気持ちをもつこと。

マナーのあるまち。(ゴミ・犬やネコのふんの無いまち・あいさつのできるまち)

行事やイベントに積極的に参加すること。

まちのバリアフリー化を進めること。

地域の歴史を学び、楽々園学区のことをよく知ること。

(3) 暮らしやすいまちにするために、自分ができることは何でしょうか？

積極的にイベントや行事に参加し、友だちをつくる。

積極的にゴミ拾いをするゴミの分別をする。

行事やイベントの宣伝活動をし、みんなに広める。

積極的にあいさつをする。

困っている人に声かけをする。

積極的に募金に参加する。

交通ルールを守る。
たとえば、自転車に乗る時はヘルメットを着用する。

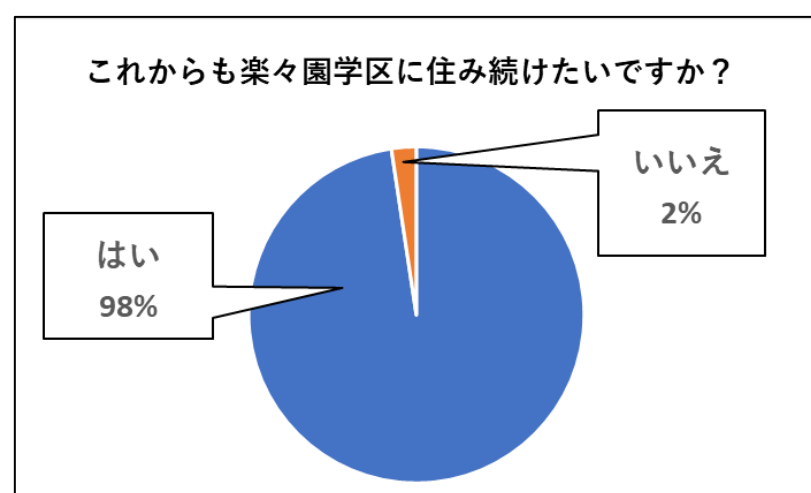
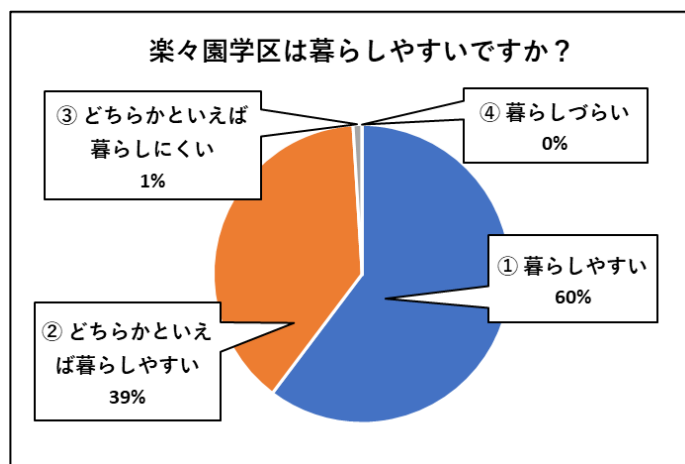
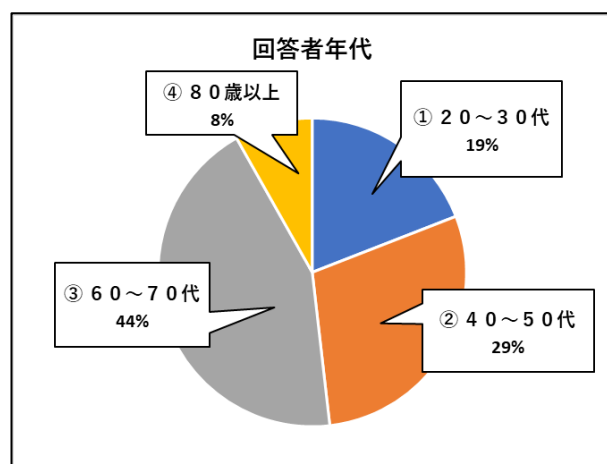
イベントや行事を計画する人になる。

積極的に緑化運動をする。



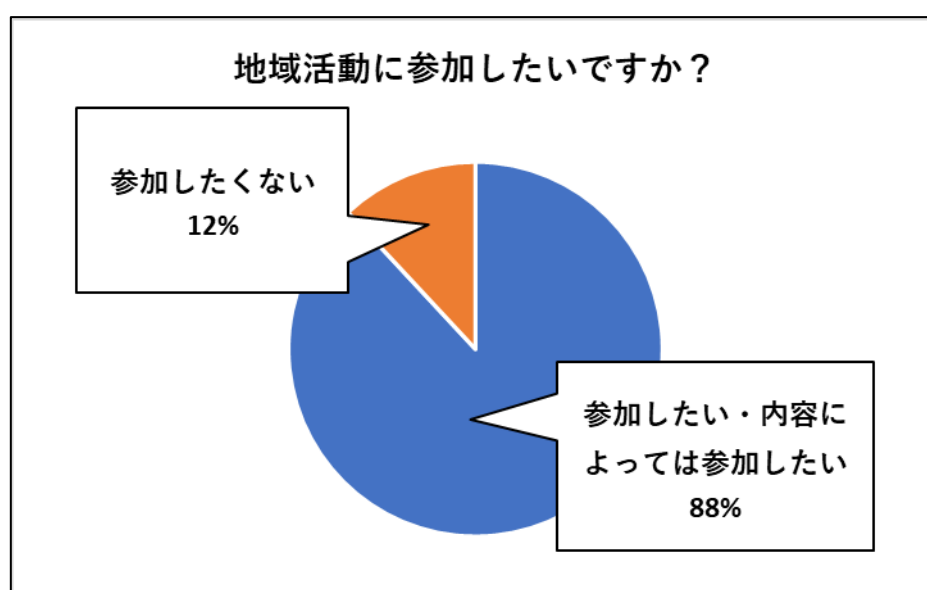
楽々園学区で生活している 220 名の方々にアンケートの協力をしていただきました

～大人の視点から～



買い物など日常生活が便利
公共交通が便利
病院や福祉施設が近い
治安が良い
etc…
アンケートから

楽々園学区の人たちは、このまちが好きな人が多い！



楽々園学区の人たちは、実は地域とつながりたいと思っている！

こんなまちにしたい・・・

～大人の視点から～

安心して、
子どもやお年寄りが
住み続けられるまち

町内の方々と
会話ができるきっかけ
機会が欲しい

環境美化・災害支援・
地域の見守りなど、
地域住民に
周知理解してもらう為の
活動を強化してほしい

災害時に皆で支えあえる
地域にしたい

気軽にあいさつを交わして
顔見知りになれば
防犯につながる

町内会の退会者が増えているので
班での交流を増やし
地域行事に誘い合って
もっと参加しやすくしていきたい

現在は満足しているが
高齢になった時に
相談しやすく
頼れる場所があればいい

困った時に
皆で助け合える
まちにしたい

回覧や広報誌など
資料の在り方を見直して
SNS時代にマッチした工夫が必要
紙資源が無駄にならないように
デジタルとの併用も考えてはどうか

間違ったゴミの出し方
野良猫へのエサやり
路上駐車などの迷惑行為
地域のルールにそって
マナーを守って住みよいまちに

国の違い、障がいの有無に
関係なく仲良く交流活動が
できるまちにしたい



6. 福祉のまちづくりのために、今後取り組むべきこと

アンケート結果から、今後、福祉のまちづくりのために取り組むべきことが見えてきましたので、策定委員会で話し合いを進め、いくつかのポイントにまとめました。

現在行われている諸行事や取り組みの継続を軸に、これら課題に取り組んでいくことに加え、新しい力や風を取り込み、課題解決に向けて、学区の方々と共に取り組んでいきたいと思います。

地域の見守り・支援活動

地域包括支援センターと連携し、楽々あんしんネットワークを軸に、サロン活動等で支えあい・見守りあいを進めていく。

子ども、高齢者、障がい者への差別・虐待を、地域で早く気づき専門機関へつなげる。

子育て支援活動

若い子育て世代家族の交流の場を企画提供していく。

こども食堂・子育てcafé・民生委員児童委員の地域福祉活動を今後も進めていく。

イベント開催の持続・活性化

各種イベント参加対象者の範囲を拡大し、町内会会員以外の多くの方々が参加し、交流をはかれるようにする。

運営にあたり、一部ボランティアに負担がかからないように配慮する。

イベントごとに、地域団体に所属していない方々にイベント参加や、運営ボランティア参加をしてもらえるよう声かけしていく。

単身高齢者への支援活動

現在、民生委員による訪問や、ふれあい配食訪問活動(まごころ弁当)を通して単身高齢者の見守りを行っている。

ぼちぼち応援隊では単身高齢者に対して、日常の困りごと支援を有償ボランティアとして行っている。

今後も広く利用してもらえるように、各種団体と情報共有しながら、周知拡大をしていく。

時代に添ったデジタル化

広報誌や行事のお知らせをデジタル化して、回覧と並行して、迅速に希望世帯に送信・配布。

SNSを使って広報活動する。

デジタルに対応するためのボランティアスタッフを増やす(大学生や高校生も視野にいれる)。

三世代交流

夏の三世代交流そうめん流しの開催を継続。

小学校で取り組んできた護岸壁画を、三世代交流のまちづくりの行事として新たにスタートさせていきたい。

月1回のこども食堂を三世代交流の場としてさらに充実させて継続。

まちの美化活動

ゴミの出し方のルール順守や、ゴミのポイ捨て防止を呼びかける。

一斉清掃への参加呼びかけを進めることで、地域の住民交流と協力推進につなげる。

花壇づくりで、景観の向上と美化意識を高める。



小学校との更なる情報共有のために

回覧では情報が行き届かない世帯も多いので、地域行事の情報を、小学校内の掲示板などを利用し、広く子どもたちに知ってもらおう。

特別授業を行い、地域の歴史・地域活動について理解を深めてもらう機会を定期的につくる。

動物との共生のために

野良猫対策

- ・ 地域猫活動の理解と推進活動
 - ・ むやみに餌や水を与えない
- 犬の散歩マナー等、飼い主への周知徹底

福祉のまち点検・障がい者グループとのふれあい

各種イベントを通じて、で・あるーく(車いすユーザーのつどい)の方々との交流。
講習会などへ積極的に参加して、バリアフリーや障がいのある方々への知識を深め、皆が気軽に声掛けやふれあいができるまちをめざす。
イベントでの交流を通して知り合い、相互の理解を深める。



地域での防犯・交通安全

住民総ぐるみで、登下校見守り運動の実施。
見守りボランティア以外の方々にも、通学路での子どもたちへのあいさつや声掛けのお願いをしていく。

年1回、公民館で防犯講習会を実施。

今後、自転車も軽車両切符制になり、罰金・罰則の対象となっていく。自転車のマナー向上が、事故防止にもつながるので、「自転車の安全五則」を広く周知・徹底していく。



地域活動へ関心を持ってもらう

広く広報し、イベント参加者を増やす。
気楽に親子で参加できるイベントを行うことで、若い世代にも地域活動に関心を持ってもらうきっかけになれば良い。
退職後の高齢者が活躍できる場をつくる。

ボランティア参加促進活動

掲示板・SNS などを活用し、ボランティア参加者募集を常時行っていく。

SNS 活用で学生などにも対象者を広げて、イベントごとにボランティア参加者を募集。

地域での防災支援活動

近年大きな災害が増え、いざという時の防災活動の必要性が高まっている。学区自主防災会が中心となって、まちづくり推進協議会全体で防災に備えた活動を推進していきたい。

- ・ 公民館などで、定期的な防災の講習会を行う。
- ・ 地域ごと実情が違うので、地域ごとの防災訓練。
(年1回以上の地域ごとの避難訓練／2年に1度の学区防災訓練)
- ・ 避難場所の周知活動を行う。
- ・ 非常時の情報伝達や給水・給食などのシミュレーション訓練を行う。
- ・ 楽々園学区内独自の防災マップを有効に活用。



7. 活動を振り返って

楽々園学区社会福祉協議会 会長 永井 宏
楽々園学区まちづくり推進協議会 会長 下江 正志

前回の第1次プラン(2004年)は、社会福祉協議会主導で、6団体で構成された策定メンバー中心で進められました。今回の第2次「福祉のまちづくり」プランは、住民の意見が多く取り入れられ、今後の福祉はどうあるべきかを考えることができた点に特徴があります。具体的には、地域22団体の構成メンバー、各町内会の班長や小学校の児童(5年生)が、アンケートを通して、地域の課題を把握し、「思い描くまち」について考えていきました。その結果、今後、福祉のまちづくりのために取り組むべき方向性をまとめることができました。ご協力、ありがとうございました。

さて、第1次プラン策定から20年間、住民が相互に協力し合い、それぞれの役割を誠実に果たしながら、一体となって取り組んだ結果、福祉を取り巻く環境が向上してきました。まず、地域共生社会の実現として、五日市南地域包括支援センターとの連携による見守りあんしんネットワークの発足、シニアクラブ、いきいきサロンや百歳体操、子育てサロンの充実、ふれあい配食訪問活動(まごころ弁当)の継続、こども食堂、ぼちぼち応援隊、なんでも相談室などの立ち上げ、生活基盤の構築として、歩道の整備、「スマートムーバー」の試験的導入などに取り組んできました。また防災・防犯活動として、学区防災マップの作成、朝夕の見守り活動、総合防災訓練の実施、防犯講習会などを行ってきました。

特に、防災マップは、地震時の避難の仕方に役立つように作成しました。さらに、5月の学区フェスティバルから始まり、サマーフェスタ、親善大運動会、三世代交流そうめん流し、マラソン大会やあまんじゃくウォークラリーなど多くの行事を行うことで、住民同士がふれ合い、交流を深めてきました。このように、誰もが住みやすい環境づくりに取り組むとともに、互いに支え合う安全で安心なまちづくりを進めてきました。

しかし、課題として、各団体の役員の世代交代が進まず、団体の組織力が低下しつつある現状があります。解決に向けて、地域にある22団体を構成メンバーとする「楽々園学区まちづくり推進協議会」を立ち上げました。これまで学区町内会連合会が中心となっていた行ってきた行事をすべて本協議会へ移行し、全団体で考え、運営できるようになりました。この取組みで、各役員の負担が少し軽減できましたが、これまで同様、「誰かが何とかしてくれるだろう」という人任せ的な考え方が多く残っていることも現実です。また、子どもたちが、少しでも多くの行事に参加できるように、各行事のパンフレットを全児童に配布してきました。この活動は、町内会会員が減っている中、全世帯を対象として行事をすることが、地域に対する関心や興味をもつ住民を増やすことにつながるものと考えます。

今後の活動として、広島型地域運営組織「ひろしま LMO(エルモ)」への参入については、各団体の意見を聞きながら進め、2025年度を目指して取り組んでいきます。また、子どもたちへの支援を増やしていくという視点で、『中国地域白書2023によると最近の大半の若者は、住む場所を選ぶ際に重視することは、「就職したい企業」「働きたい仕事」ではなく、「ここで住んで暮らしやすいのか、希望がかなえられるのか」を考え、自己実現できると感じられる地域との関わりやつながりを大切にしている』と中国新聞社説に掲載されていました。先日の5年生のアンケートからも、「たくさんのイベントに参加して、みんなで笑顔を作りたい」「大人になったら、地区ボランティアに参加したい」「わたしも何かできたらいいなあ」と地域に関わろうとする意欲のある表現がありました。

この子どもたちの思いを大切にしながら、地域との関わりやつながりを大切にできる若者を育てていきたい。これからも「子どもたちを応援するとまちが元気になり、老若男女すべての人が幸せになる」をモットーに頑張りたい。

まちをつくるのは「ひと」、これからの楽々園学区をつくるのは今の楽々園学区の「子どもたち」です。

楽々園学区 第2次「福祉のまちづくりプラン」策定委員メンバー（順不同）

- | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|--------|
| ・永井 宏 | ・山本 幸江 | ・大原 武久 | ・金澤 節子 | ・平林 勝恵 |
| ・北村 達也 | ・佐々木 義正 | ・日野 成紀 | ・石田 教子 | ・沖田 彰 |
| ・平林 順也 | ・本田 順子 | ・田原 博則 | ・青木 龍一 | ・佐伯 和明 |
| ・下江 正志 | | | | |

楽々園学区 第2次「福祉のまちづくりプラン」協力団体（順不同）

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| ・楽々園学区町内会連合会 | ・楽々園センター商店街振興組合 |
| ・五日市西地区民生委員児童委員協議会 | ・らくらくクラブ |
| ・シニアクラブ「明星会」 | ・楽々園母親クラブ |
| ・楽々園学区自主防災会連絡協議会 | ・広島市立五日市南中学校 |
| ・楽々園学区防犯パトロール隊 | ・広島市立楽々園小学校 |
| ・楽々園学区体育協会 | ・広島市立楽々園小学校PTA |
| ・楽々園学区青少年健全育成連絡協議会・指導員 | ・広島市立楽々園小学校父親委員会 |
| ・楽々園学区献血推進協力会 | ・広島市立楽々園小学校おやじの会 |
| ・楽々園公衆衛生推進協議会
（楽々園・隅の浜・美の里地区） | ・広島市楽々園児童館 |
| ・五日市南地区商工組合 | ・広島市楽々園公民館・美隅公民館 |
| | ・五日市南地域包括支援センター |



発 行／2024年（令和6年）3月

発行者／楽々園学区社会福祉協議会（第2次福祉のまちづくりプラン策定委員会）